精神鑑定	札幌 古屋	統		浅き春	栗山高
弁護士のパーフォーマンス鑑定で被告の刑を軽くし白晝の無差別殺傷鑑定の責負わされる医師も被害者	なして見せる			まだ寒き朝に窓あけ空見れば淡く輝く春の色あ都では桜の花の咲く頃やこの北国の雪は白きに	'n
複数の鑑定医微妙に食い違う宮崎勤事件その他前例なき猟奇事件が相次ぎて精神鑑定医が振廻	の他もろもろ			喜びも悲しみもあり三月に去りゆく人も見送る春風に嬰児の細き前髪も吹かれて揺れて眠りた	送る人も
対う鑑定事例に助手われら思い知らされ	人の裏			遠き日の別れも今や想い出のひとつとなりぬ春朧月	· 朧 · で · · · · · · · · · · · · ·
冬の通勤	美唄 吉村	誠治	R	インドの旅行	旭川
凍る朝下りホームに我一人電車待つ身に雪降り	かかる			人間もバイクも車も交錯しそれなりに調和しているデリ	いるデリ
冬となり五分で間に合ふ駅なるに妻は車で送り	ってくるる			高速路を逆走して来る車ありたじろぎもしない熟練の運	熟練の運
吹雪なる美唄駅を発ちしかど滝川の空は陽ざし	明るし			華やかに色彩塗られし象タクシーアンベルー城目ざして	目ざして
この冬は気候変動大きくて重ねる下着に今朝も	も迷へり		Z	ヒンズーの教えを信ずる人多く物乞う子等のおだやかな	だやかな
八十路すぐ冬の通勤案じたる妻の求めし下着は厚	厚し		うえい	誹謗し合う政治家の多き吾が国なれどインドの人より信	人より信
サワフタギ	札幌 浜島	泉	1221	鳥	江別ニ
紅葉の森の彩りサワフタギ コバルト色の真珠	の真珠と紛ふ		1	木枯らしに はぐれヒヨドリー羽ゐて声甲高く友を呼ぶ	友を呼ぶ
繁る葉が湿雪負ひし後遺症倒木裂けし木撓み残す木	スす木		No.	なき雪の	汚れ残し
出勤時驟雨到来バスに乗るみぞれに変はり窓ガラス	クラス打つ			シベリアのH5N1を運び来る病みし白鳥ああ白鳥よ	白鳥よ
ロッカーのキー見出だしぬ空港の金属チェック	ク通るに除けし		ふひ	イライラにストラヴィンスキー「火の鳥」のオドロオドロを癒	オドロを癒
回診を心待ちする老人の喜色に医師の使命を学ぶ			北海	遥かなる宇宙へと飛ぶ「こうのとり」日本製なる精密さ	る精密さ
冬日	釧路 児玉	昌彦		E2系	札幌山
いつかまた会えると信じ別れたる心ゆらげり時	の経る間に			E2系トップに飾り進みたり海をば望み函館目ざし	ざして
書き終えた賀状をそっと別にしてやはり出すの	いは止めにしようと	ノと		歴史をば歪曲せんとふ悪しきあり已が心に傲慢住むや	住むや
天皇も加齢と家庭さまざまな悩み持つ身と知り	,て思えば			すぐる年猛暑となりしそのツケか今年の根雪足踏しをり	(踏しをり
来し方を振り返るのはこの先も歩き続けるため	の小休み			トラ眠り兎は目ざめ平和来る地球をおほふ暗雲去るや	(去るや
雪積もりしばれる朝にフト思う網かけおりし蜘	~ 蛛いずこにと			慢心を押へわが技に専念せよや能ある鷹よ	

部ではそのもの美く頂やこのと国の雪は白きころまま 栗山		高田	剛太
喜びも悲しみもあり三月に去りゆく人も見送る人も春風に嬰児の細き前髪も吹かれて揺れて眠りたもうやまだ寒き朝に窓あけ空見れば淡く輝く春の色あり	ŕ		
インドの旅行 旭川	<i>)</i>	稻積	文子
高速路を逆走して来る車ありたじろぎもしない熟練の運転人間もバイクも車も交錯しそれなりに調和しているデリー	のデ	運転りしの街並	並
誹謗し合う政治家の多き吾が国なれどインドの人より信頼厚ヒンズーの教えを信ずる人多く物乞う子等のおだやかな顔貌華やかに色彩塗られし象タクシーアンベルー城目ざして人乗	りかし	信頼厚して人乗せ歩く	歩く
鸟 工刊		三宅	告次
汚れなき雪の白さにレンジャクは赤い木の実の汚れ残して木枯らしに はぐれヒヨドリー羽ゐて声甲高く友を呼ぶらし	残呼	しぶらし	
12	をよ	癒しとして	て 聴 く
遥かなる宇宙へと飛ぶ「こうのとり」日本製なる精密さを見よ	密	さを見よ	
E2系トップに飾り進みたり海をば望み函館目ざしてE2系	て 脱	山 口	康徳
歴史をば歪曲せんとふ悪しきあり已が心に傲慢住むや	や		

25